

3. 議事

(1) 金剛地区再生指針推進の取り組み報告

金剛地区再生指針 (平成29年3月策定)

まちの将来の目標像

きらめ

一人ひとりが煌き続けられるまち

誰もがいきいきと学び、遊び、働き、また地域活動等に取り組むなど、一人ひとりが煌き、自らの夢や想いの実現に取り組むことができるまちを目指します。



おもむき

閑静な趣を育み続けるまち

まち開きから約半世紀を経て成熟した閑静な趣を引き継いで、まちへの愛着と誇りを育てるとともに、新しい風を受けて次世代に向けて魅力を育み続けるまちを目指します。



将来像実現に向けたまちづくりや暮らしを進める中で、居住魅力を高め、新たに多様な世代の居住者を呼び込み、まちの活性化を目指す。

将来像の実現に向けた取り組み項目

1 地域の連携による「サービス」と「支え合い」の展開

- ・地域の連携で、暮らしの安心を支える
- ・便利で魅力のある生活サービスを充実する
- ・「居場所」となる活動をつくる
- ・多様な「交流」の仕掛けをつくる

2 多様な「住まい」の供給・流通の促進

- ・改修や建て替え等に取り組む
- ・空き家の流通促進等、住宅市場の活性化を支える

3 豊かで多機能な「空間・施設」の充実

- ・空き店舗等を活用し、多機能が複合した生活サービス拠点づくりを目指す
- ・生活サービス機能等の充実のため、空き家や空きスペースを有効活用する
- ・“憩える”“楽しめる”“使いこなせる”広場や通りに再生する

4 まちを運営する「仕組み」の構築

- ・住民等が主体となってまちを運営する「仕組み」をつくる
- ・時代の変化にあわせてまちづくりのルールを考える

■ 指針に基づき、再生・活性化の取り組みを進める(平成29年4月～)

「金剛地区まちづくり会議」を設置

指針に基づき、地区にかかわる全ての人等が一丸となって地区の再生・活性化を進めるため、その主体となるボランティア組織として設置。

※指針の取り組み(前項参照)『4. まちを運営する「仕組み」の構築』、及び『第5章 金剛地区再生の実現に向けて』に即す。

「金剛地区まちづくり会議」が主体となり、指針に基づく取り組みを推進

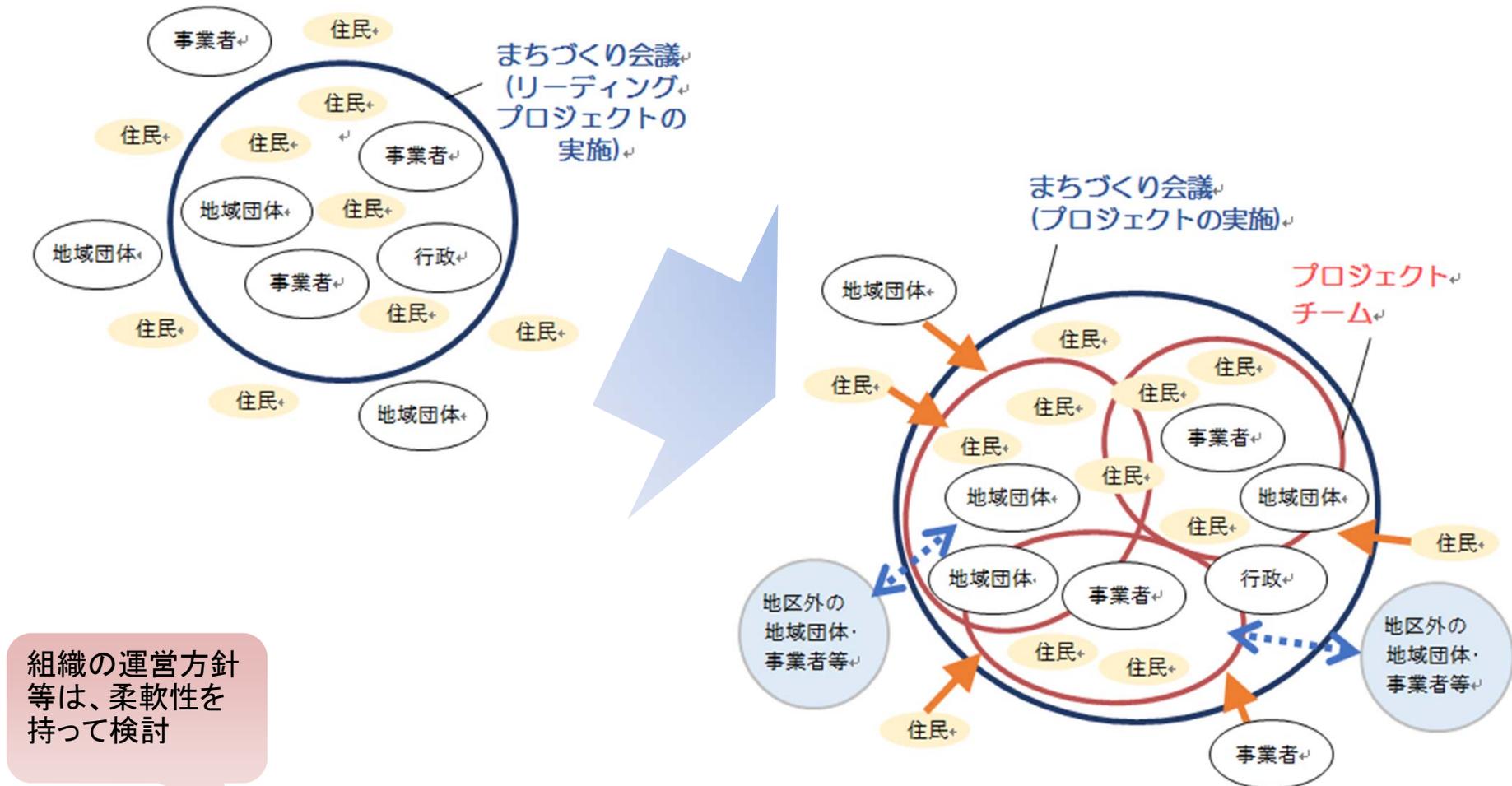
指針の取り組み項目を参考とし、ソフト的なことを中心に、住民等が主体となって、出来ることから取り組む。

あわせて、ハード整備を含む中長期的なまちづくりの検討も必要。 ※本協議会での検討事項とする。

行政は組織横断的な体制で再生・活性化の取り組みをバックアップ

- ・まちづくり会議の事務局として、会議の開催や取り組みの実践を支援。
- ・指針の内容、及びその取り組み体制等を共有するため、職員向け研修会を開催。(6月16日(金))

■ 取り組みの展開イメージ



組織の運営方針等は、柔軟性を持って検討

新たなメンバーの加入や他の組織・活動との連携により、活動の輪を広げるとともに、住民等が主体となって運営できる組織として、発展していく必要がある。

全3回の会議を開催

- 第1回(6/11) 参加者全員が金剛地区への「思い」を公表。
- 第2回(6/24) 小野先生をお招きし「増進型ワークショップ」実施。
- 第3回(7/9) 具体的なプロジェクト始動に向けて、テーマごとに分かれて「グループワーク」を実施。

住民等が主体となって進める取り組みを考える

■増進型の考え方により、取り組みテーマ・アイデアを考える

①取り組みのテーマを検討

興味があること!

やってみ
たいこと!

地域に必
要なこと!

取り組み
やすいこと

地区で気
になること

②テーマに応じ、理想的な姿、状態、場面を想定し…

⇒それらを実現するため、取り組みのアイデアを考える

③選んだアイデアについて…

⇒より具体的な計画をつくり実践する

会議で出されたアイデア等

居場所づくり

- ・ふらっと立ち寄れるカフェ
- ・多世代が交流できる場
- ・住民が担い手として運営
- ・空家の活用
- ・集会所、小学校の活用

防災活動

- ・防災マップづくり
- ・地域単位での防災啓発
- ・自主防災組織の設立
- ・小学校区単位での訓練
- ・防災モデルハウス

公園活用

- ・公園を集いの場に
- ・防災活動の場として活用
- ・朝市や青空カフェの開催
- ・BQQ等の利用を可能にする
- ・プールの開設(復活)

その他イベント等企画

- ・日頃から顔を合わせる場や機会を作る(きっかけづくり)
- ・高齢者が主体となれる行事を企画
- ・運動会など大人数が集まるイベント
- ・自治会活性化のための小さなイベント
- ・金剛バルへの参加・協力

コミュニティ

- ・日頃から顔を合わせる場や機会を作る(きっかけづくり)
- ・コーディネーター的な役割の担い手が必要。
- ・地域での積極的な声掛け
- ・町会(自治会)の活性化

情報の収集・発信

- ・地区の様々な情報を一元化
- ・ニュースレター作成
- ・ネット、SNSで情報発信
- ・ラジオ局の開設

ソフト的取り組みの積み重ねの中で検討が必要。

中・長期的なまちづくりの検討

- ・ピュア金剛跡や新たな場所にコンビニや施設を誘致
- ・地域活動等の拠点となる、複合型施設の設置
- ・寺池公園や中央公園をだれもが利用しやすく改修する

四つの部会を設置

居場所づくり

公園活用

これまで、各部会がそれぞれ2回の会議を開催

イベント企画

防災活動

ソフト的なことを中心に、住民等が主体となって、出来ることから取り組む。

- ・ソフト面で具体的な動きが進む中で、中・長期的(ハード)視点によるまちづくりの検討は不可欠。
- ・ソフト的取り組みと中・長期的なまちづくりの視点の連携が必要。
→今後、並行して中・長期的なまちづくりを検討する機会を作る。

居場所づくり部会

つどいの場となるカフェ「つながりカフェ」を開催。

- ・金剛地区での集いの場づくりを目的として活動する「金剛地域つながり応援実行委員会」と連携。
- ・内容は、①専門職からの見守りに関する講話、②歌声喫茶、③カフェタイム、④アンケート(次の開催の参考に。担い手探しに。)

・①日時:10/13(金) 13:30～15:30②会場:UR第二集会所(久野喜台二丁目120号棟)③参加費:100円



- ・カフェ開催を集いの場づくりのきっかけとして活かし、次の開催に繋げる。
- ・今回のカフェを参考に、他の地域で別団体が主体となるカフェ開催にも繋げる支援を行っていく。

イベント企画部会

金剛バルへの協力

- ①金剛銀座商店街で飾るペットボトルツリーの作成協力。
- ②金剛バルでまちづくり会議として出店。

朝一(マルシェ)の開催

野菜の販売だけでなく、情報や集いの場となるような、色々な試みを行う「そこに行けば何かある」朝市を開催する。

→既に軽トラマルシェを開催している「富田林市の農業を創造する会」の方が部会に参加。

ふれあい大通りにテーマ性を持たせた取り組み

冬のイルミネーションだけでなく、季節ごとに花を植え、ふれあい大通りを賑やかにして、いつも見に行きたくなる誰でも楽しめる通りに。

→花植えについての基礎情報を学ぶために勉強会を開催。管理体制づくりをし、できることから始める。

公園活用部会

寺池公園の利活用促進

利用者が少ない寺池公園を、行政・住民が協働して整備・管理し、寺池公園の利用・活用を促進する。



公園の現状等を知るとともに、公園コンセプトの変更を視野に入れ、住民の中でどのような公園にしたいのか意見統一をはかるために、専門家を交えて行う「公園フィールドワーク」を10/28に行う。

中央公園の利活用促進

- (1) 日常的に使えるように、どのような公園にするのか、住民の公園に対するニーズ把握を進める。
- (2) スポーツホールやプールの活用については、一定の方向性を持った話し合いを進めることが必要。

緑のネットワークづくり

中央公園、寺池公園だけでなく、金剛地区内に点在する公園を結ぶことでたくさんある地区内の公園の利活用を促す。

→何kmのウォーキングコースかを表示し、道中の名所、見どころを盛り込んだマップと標識の作成。

防災活動部会

＜今年度の目標を、金剛地区の防災意識の啓発とする。＞

寺池台小学校で開催する避難訓練の協力

11/25(土)に、大人から子どもまで全世代を対象にして寺池台小学校で開催する避難訓練に協力する。



金剛地区まちづくり会議及び、寺池台3丁目の自主防災会発足についての報告や、自治会町会など、地域の方への広報を協力。

防災に関する講演会(イベント)の開催

防災意識の啓発、特に女性や、元気なシニアへの啓発を目的として、防災をテーマとした講演会、イベントを金剛地区全域を対象として開催。

講演は、**防災意識の底上げに向けて、身近な視点で話していただける専門家に依頼。**

■facebook(SNS)ページを立ち上げ

- ・まちづくり会議や部会の開催状況、地区内の様々な話題を情報発信しています。

『金剛地区まちづくり会議』
で検索！

■ニュースレターの発行

- ・H29年9月14日に編集会議を開催。
- ・第1号を10月末に発行予定。
- ・指針推進の取り組みの進捗情報等について、地区の皆さんに周知。

■地区に関する情報の一元化整理

- ・居場所となる場所(集会所、施設、公園等)や活動(文化、スポーツ等)の情報を収集し、一元化したデータベースをつくる。

ウェブサイトで公開を検討。

■キックオフイベント(シンポジウム)の開催

- ・指針策定の報告、及び指針に基づく取り組みの実践に向けて、地区の皆さんの機運を高める場とする。
- ・開催時期、詳細内容については、検討中。